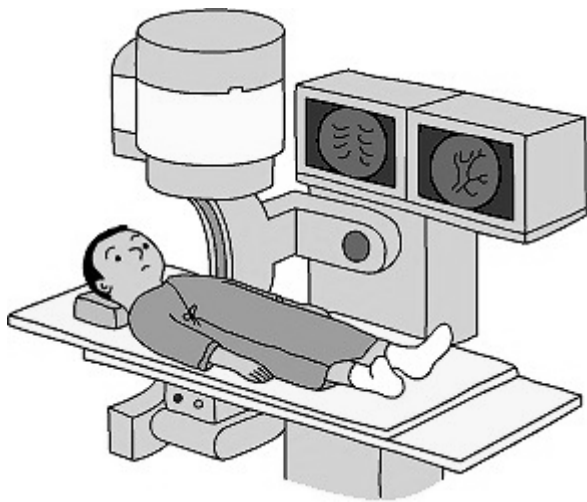


虚血性心疾患の典型的な症状は、みぞおちの締めつけ感、押さえつけられるような感じといわれています。しかし、糖尿病、高齢、透析をしている方では症状があまりはつきりせず、胸やけや胸の違和感、透析中の血圧低下が虚血性心疾患のサインであったり、時にはまったくの無症状で虚血性心疾患が進行したりすることがありますので注意が必要です。

偕行会の透析施設では、定期的に心臓超音波検査やホルター心電図（24時間心電図）を検査することによって、虚血性心疾患をはじめとする心臓病の早期発見に努めております。日本において糖尿病性腎症によって透析をされている方の5年生存率は50%ですが、偕行会の透析施設に通院されている方では74%です。心臓病の早期発見・早期治療がこの一翼を担っていることは言うまでもありません。



心臓病の精密検査のひとつに心臓カテーテル検査があります。当院では昨年1年間に冠動脈造影検査1217件、冠動脈カテーテル治療475件を行わせていただきました。皆様のなかにも心臓カテーテル検査を行ったことがある方も多いかもかもしれません。今回はこの心臓カテーテル検査について、すこし詳しくお話したいと思います。

カテーテル検査には多く分けて以下のような検査があります。

① 冠動脈造影検査（CAG）・治療（PCI）

心臓カテーテル検査のなかで最も行われている検査で、冠動脈の撮影をして、狭心症や心筋梗塞の診断・治療をします。カテーテルと呼ばれる細い管を肘や足の付け根の動脈から入れていきます。局所麻酔薬を使いますので、痛みはあまりありません。

もし、冠動脈に狭いところがあった場合には引き続き治療を行います。（病気のタイプ・患者様の希望によっては後日の治療となります。）冠動脈の狭いところを専用のバルーン（風船）（図1）でひろげたり、ステント（筒状の金網で血管の内張りをするもの）（図2・3）を入れたりします。検査だけであれば、20分程度（血管の蛇行などによりもっと時間がかかることもあります）、治療を行った場合には病気の程度により30分～2時間程度かかります。

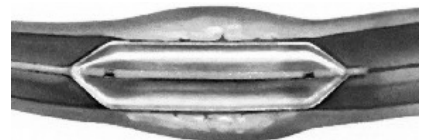


図1

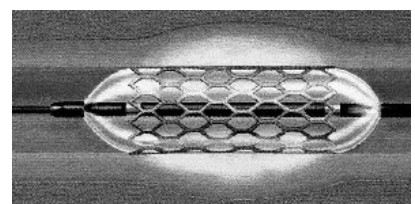


図2

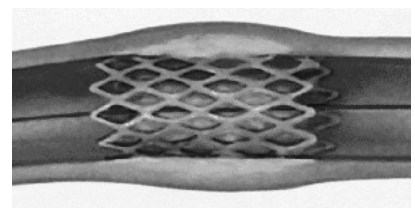


図3